

1. 授業評価の目的

学校教育法の改正により、大学・大学院において第三者評価が義務づけられ、専門職大学院においては5年に1回の第三者による認証評価を受けることが求められている。大学・大学院に対する第三者評価制度の導入は、自己点検・評価とともに教育研究水準の継続的な向上を目的としたものである。本学では「授業を通じた知的活性化」を全学的目標として掲げ、経営戦略研究科は、教員の資質維持向上の方策のひとつとして、「授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修等の実施に関する対応」に取り組んでいる。

本研究科では、これらのことから、授業内容および授業方法の改善を図るため、各クォーターの最終授業時に、学生による授業に関するアンケートと教員の担当科目自己評価を実施することとしている。授業評価の目的は、本研究科学生の研究面での実態や現状、学生の授業に対する認識・反応などをアンケートから探り、その結果を分析することによって、教育の現場に反映させる基礎資料を作成し、ビジネススクールおよびアカウンティングスクール教育の質的向上を図るとともに、ビジネススクールおよびアカウンティングスクール教育固有の教学上の諸課題を把握し、解明することにある。ここで注目したいのは、この学生アンケートと並んで、授業担当者自身の授業についての自己評価を学生の評価に合わせて実施したことである。これは、学生のアンケート結果と同時に実施されており、各教員は学生の授業評価結果はもちろん、最終試験結果を見ない段階で授業を振り返ってアンケートの記入を行った。このような試みは、学生の評価と対照することで、より良い授業のヒントが得られるものと思われる。

本報告書は、本経営戦略研究科において2008年度春学期に開講した授業についての評価アンケート結果をまとめたものである。これまでの「授業評価アンケート結果報告書」と同様に、本報告書の構成は、2008年度春学期授業評価アンケート結果概要・分析、授業評価アンケート実施科目一覧、授業評価アンケートフォーム、アンケート結果（アンケート授業別集計結果（サンプル））およびグループ・インタビュー調査結果（抜粋）からなっている。

授業評価に関する調査の企画、調査票の作成、および集計結果についての分析と本報告書の執筆については、本研究科教授会のもとに設置された「経営戦略研究科自己評価委員会・授業評価・FD部会」のメンバーを中心として行われた。また、「教員の担当科目自己評価」の見直しを行い、今回からそのフォームを変更した。

なお、調査の実施等の方法についての詳細は、以下の「調査実施方法」のとおりである。今回の調査では、ほぼすべての授業科目および学生からの回答が得られた。アンケート実施に当たって、貴重な授業時間を割いていただいた各教員の先生方に感謝申し上げる。また、実際に回答を寄せていただいた学生諸君に深く謝意を表す。さらに、最終的には、調査票の発送・回収、整理の一番煩雑ではあるが重要な作業を行っていただいた経営戦略研究科事務室にも、この場を借りて御礼申し上げる。

2. 調査実施方法及び期間

授業内容については、春学期・秋学期の授業終了時に受講生による授業評価を実施している。授業評価アンケートの実施方法や実施期間等については、以下のとおりである。

（1）実施対象授業科目について

授業評価アンケートを実施した授業科目は、原則的に2008年度春学期に開講されたすべての科目であり、2007年度冬季集中科目を含んでいる。本研究科全体でみた場合、アンケート実施対象科目は101科目である。その内訳は、経営戦略専攻が36科目、会計専門職専攻が65科目であった。

現行カリキュラムのもとで、授業科目はコア科目群、ベーシック科目群およびアドバンスト科目群に分類されており、当該授業科目の性格上、複数クラスを開講している科目もある。したがって、授業評価アンケートを実施対象クラスでみた場合、本研究科全体で133クラスであった。その内訳は、経営戦略専攻が53クラス、会計専門職専攻が80クラスである。

(2) 回答者、回答率等について

2008 年度春学期の授業評価アンケート調査実施対象授業科目の履修登録者数は 2,626 人で、実際にアンケート調査を回答した者は 2,277 人であった。つまり、アンケート調査の回答率は 86.7%であったことを意味する。

各専攻別の内訳は次のとおりである。経営戦略専攻の授業科目の履修登録者数は 1,083 人で、アンケート調査の回答者数は 957 人であった。回答率は 88.3%である。また、会計専門職専攻の授業科目の履修登録者数は 1,543 人で、アンケート調査の回答者数は 1,320 人であり、その回答率は 85.5%であった。

(3) 実施期間について

設置認可申請書に明記したように、授業評価は、春学期、秋学期の授業終了時に実施することになっている。したがって、2008 年度春学期の授業評価アンケートの実施期間は、第 1 クォーター開講科目については、2008 年 5 月 21 日（水）～6 月 7 日（土）の最終授業時に実施した。補講を実施した科目については、最終授業時となる 2008 年 5 月 21 日（水）～6 月 7 日（土）に実施した。

また、第 2 クォーター開講科目については、原則的に 2008 年 7 月 22 日（火）～7 月 28 日（月）の最終授業時に実施した。補講を実施した科目については、最終授業時となる 2008 年 7 月 22 日（火）～7 月 28 日（月）に実施した。また、春季集中講義の各科目については 2008 年 8 月 7 日（木）～8 月 30 日（土）の最終授業時にかけて実施された。

(4) アンケートの実施について

授業評価アンケートは、次の手順で実施した。

- ①授業評価アンケート時間は、最終授業時の授業終了前 15 分間とする。
- ②最終授業開始前に、授業評価アンケート用紙と「教員の担当科目自己評価表」の入った封筒を、経営戦略研究科事務室にて担当者氏名と担当科目を確認のうえ受け取る。
- ③最終授業開始時に、「授業終了 15 分前に授業を終了し、授業評価アンケートを実施する」旨を受講者に伝える。
- ④授業終了 15 分前に、授業担当者は授業評価アンケート用紙を受講生に配布し、その場で直ちに回答するよう指示する。当該用紙の配布および回答の指示後、学生の自由な回答・記入を促進するため、授業担当者は教室から退室する。同時に、授業担当者は研究室や講師控室等にて「教員の担当科目自己評価表」の記入を行う。

なお、「教員の担当科目自己評価表」は、次のような自由記述形式の 3 つの設問からなっている。

1. 「この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか。」
 2. 「この科目において、実施してよかった点と改善・工夫をした方がよい点は何ですか。
クラスで実施した小テストやレポートの内容、発問に対する学生の答え、学生の教員への質問などから総合してお答えください。(1) 実施してよかった点、(2) 改善・工夫をした方がよい点」
 3. 「この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか。」
- ⑤授業終了後、授業担当者は教室に戻って授業評価アンケート用紙を回収し、記入済みの「教員の担当科目自己評価表」とともに所定の封筒に入れて事務室に返却する。なお、受講者の自由な回答を促進するためにも、授業担当者は、授業評価アンケート用紙の回収時および回収後も当該アンケートは閲覧しない。

(5) 集計

2008 年度春学期の授業評価アンケートについては、実施授業科目のクラスごとに集計を行った。この「授業評価アンケート授業別集計結果」は、各授業クラスの履修登録者数、回答者数

(学年別、所属専攻別、出身学部別の回答者数)、各設問の有効回答数、有効回答数の平均値および専攻平均値が示される。このうち、各設問の有効回答数の平均値と専攻平均値は、レーダーチャートによって視覚的にも明示している。

授業評価アンケートには、自由記述に関する設問が 3 問ある(「この授業で良かったところを具体的に書いてください」、「この授業で変えてほしいところがあれば、具体的に書いてください」および「この授業に関連して気づいたことがあれば書いてください」)。学生による授業評価アンケート実施にあたっての基本的スタンスとして踏襲してきたように、この自由記述の回答内容については公表対象とせず、授業内容および方法の改善のための資料と資する目的から、授業担当者に配付している。

3. 経営戦略専攻企業経営戦略コース

A. 学生による授業評価

(1) 概観

学生の授業評価に関する調査の方式は、授業内容や自己の学習態度など 18 個の設問に、学生が 5 段階評価で答えるというものである。今回見られた全体としての傾向は、2007 年度秋学期に比較して、設問 18 を除く 17 項目中 10 項目で評価に変化が見られず、残りのうち 5 項目は +0.1 ポイント、2 項目は -0.1 ポイントと、ほぼ変化が見られないことである。ほとんどの項目で 0.1~0.3 ポイント向上した 2007 年度秋学期の報告書において、「学生の授業への評価が高まったのかもしれないが、今回の評価者が相対的に高めの評価をする傾向があった可能性もある。したがって、授業の質が向上しているかどうかは、次回の結果を見て判断すべきであると思われる。」と記載されていた点を改めて考慮すると、この 1 年で「学生の授業への評価が高まった、授業の質が向上した」と評価してよいと思われる。

以下では、例年と同様に各設問をブレークダウンして分析するが、今回はそれらに加えて、履修者人数による違いを見てみた。それによれば、人数が少ない科目ほど学生による満足度が高まる傾向にある。これは人数が多い科目でいかに学生の満足度を高めるかが課題であることを示している。

(2) 設問項目について

学生による評価アンケートは、設問 1 から設問 10 が「教員の授業内容と方法」について、設問 11 と設問 12 が「学生自身の取り組み」について、設問 13 から設問 15 が「授業の全般的評価」についてであり、設問 16 と設問 17 は、コア、ベーシックおよびアドバンストの科目区分(科目群)との目的整合性について、また設問 18 は公認会計士試験対策としての役立ちについてのものであった。

(3) 全般的評価について

以下では、質問内容別の全般的評価を見ていく。「教員の授業内容と方法」への評価に対する質問(設問 1 から設問 10)についての平均は 4.44 (前期比 +0.01 ポイント)、「学生自身の取り組み」(「学習への事前準備」)に対する質問(設問 11 と設問 12)についての平均は 3.91 (前期比 +0.06)、「授業に対する満足度」に対する質問(設問 13 から設問 15)についての平均は 4.27 (前期比 -0.03)であった(以上、推移や差異を明確にするため、小数点第二位まで表記している)。授業に対する満足度が若干下がっているが、いずれにおいても微増減で開学以来の高い水準を保っていると言える。コア、ベーシックおよびアドバンストの科目区分との関連性(設問 16)については 4.4 (前期比 +0.1)、またコア、ベーシックおよびアドバンストの科目区分別の目的整合性(設問 17)については 4.3 (前期比 ±0)であり、前期とほぼ同じで高い水準を保っている。

< 学生評価の推移 >

	2005年度 上段：春学期 下段：秋学期	2006年度 上段：春学期 下段：秋学期	2007年度 上段：春学期 下段：秋学期	2008年度 春学期	2007年度 秋学期と 2008年度 春学期比較
教員の授業内容と方法 (設問 1～設問 10)	4.14 4.19	4.24 4.26	4.27 4.43	4.44	+0.01
学生自身の取り組み (設問 11～設問 12)	3.45 3.65	3.70 3.80	3.75 3.85	3.91	+0.06
授業に対する満足度 (設問 13～設問 15)	3.80 3.90	4.07 4.03	4.17 4.30	4.27	-0.03

(4) 個別項目について

全般的な評価がいずれも微増減であったように、個別で見ても、17項目中10項目で評価に変化が見られず、残りのうち5項目は+0.1ポイント、2項目は-0.1ポイントと、ほぼ変化が見られず、学生側から教員側を評価した項目は相対的に高いポイントとなっている。あえて言えば、「教員の授業内容と方法」評価の中で、「シラバスとの整合性」(設問1)が4.6、「教員の準備」(設問2)が4.6、「教員の専門知識の高さ」(設問3)が4.7であり、もともと前期まで十分に高い評価を得ていた数字がより高くなった。相対的に低い項目は、「教員は個々の学生の内容理解の水準を考慮していたか」(設問6)の4.2、「課題の量は適正か」(設問7)4.3で、また「授業内容と時間配分の適正さ」(設問8)が唯一前期比のポイントを下げては4.2であることから、問題があるといえるほどの数字ではないと考えられるが、改善の余地があるのかもしれない。

< 項目別の学生評価推移① >

	2005年度 上段：春学期 下段：秋学期	2006年度 上段：春学期 下段：秋学期	2007年度 上段：春学期 下段：秋学期	2008年度 春学期	2007年度 秋学期と 2008年度 春学期比較
設問 1	4.3 4.4	4.4 4.4	4.4 4.6	4.6	±0.0
設問 2	4.3 4.4	4.5 4.5	4.4 4.5	4.6	+0.1
設問 3	4.5 4.5	4.6 4.6	4.6 4.6	4.7	+0.1
設問 4	4.1 4.2	4.1 4.2	4.2 4.4	4.4	±0.0
設問 5	4.2 4.1	4.2 4.3	4.3 4.4	4.4	±0.0
設問 6	3.8 3.8	3.9 4.0	4.0 4.2	4.2	±0.0
設問 7	4.0 4.0	4.0 4.0	4.1 4.3	4.3	±0.0
設問 8	3.6 4.0	4.0 3.9	4.0 4.3	4.2	-0.1
設問 9	4.4 4.3	4.4 4.4	4.4 4.5	4.5	±0.0

設問 10	4.2	4.3	4.3	4.5	±0.0
	4.2	4.3	4.5		

「学生側での予習・復習」(設問 11) は、4.0 ポイント、「授業を受けるに当たっての文献探査」(設問 12) は 3.9 で、前回より+0.1 ポイントであった。

<項目別の学生評価推移②>

	2005 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2006 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2007 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2008 年度 春学期	2007 年度 秋学期と 2008 年度 春学期比較
設問 11	3.5	3.7	3.8	4.0	+0.1
	3.7	3.8	3.9		
設問 12	3.4	3.7	3.7	3.9	+0.1
	3.6	3.8	3.8		

「授業が全般的に満足いくものであったか」(設問 13) は 4.3 で、前期比較-0.1 ポイントとなっている。「分析力や批判力の獲得」(設問 14) は 4.2、「この授業を他の学生にも薦めたいか」(設問 15) は 4.3 で前期と変わらない。

<項目別の学生評価推移③>

	2005 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2006 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2007 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2008 年度 春学期	2007 年度 秋学期と 2008 年度 春学期比較
設問 13	3.9	4.2	4.2	4.3	-0.1
	4.0	4.1	4.4		
設問 14	3.6	3.9	3.9	4.2	±0.0
	3.8	3.9	4.2		
設問 15	3.9	4.1	4.1	4.3	±0.0
	3.9	4.1	4.3		

「その分野の基礎的な内容をカバーしているか」(設問 16) に対しては 4.4 ポイントで、前期比+0.1、「初学者に対しても配慮されたものだったか」(設問 17) は 4.3 ポイントで前期と変わらない。

<項目別の学生評価推移④>

	2005 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2006 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2007 年度 上段：春学期 下段：秋学期	2008 年度 春学期	2007 年度 秋学期と 2008 年度 春学期比較
設問 16	4.0	4.1	4.1	4.4	+0.1
	4.1	4.2	4.3		
設問 17	3.8	4.1	4.0	4.3	±0.0
	4.0	4.1	4.3		

(5) 履修者数による違い

今回の分析では、履修者数（便宜上、アンケート回答者数で代用した）による違いを見てみた。教員の授業内容と方法（設問 1～10）について、10 人未満の科目では、一番低くても設問 7 の 4.5、設問 1, 3, 5, 10 において 4.8 で、平均 4.7 と満足度がとても高い。一方、40 人以上の科目では、設問 6, 8 で 3.9、最高でも設問 3 の 4.6 で、平均は 4.2 と相対的に満足度が低い。授業に対する満足度を問う設問 13～15 のいずれにおいても、10 人未満の科目と 40 人以上の科目とでは、0.6 ポイントの大きな差が生じている。科目の性質にもよるだろうが、人数が多い科目でいかに学生の満足度を高めるかが課題であることを示している。

< 教員の授業内容と方法（設問 1～10） >

人数	問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10	1-10 平均
1-9	4.8	4.7	4.8	4.7	4.8	4.6	4.5	4.6	4.7	4.8	4.7
10-19	4.6	4.7	4.8	4.5	4.6	4.3	4.3	4.4	4.6	4.6	4.5
20-29	4.5	4.6	4.7	4.4	4.5	4.2	4.3	4.3	4.6	4.5	4.5
30-39	4.7	4.7	4.8	4.5	4.7	4.4	4.5	4.4	4.6	4.6	4.6
40-49	4.5	4.4	4.6	4.3	4.1	3.9	4.0	3.9	4.3	4.4	4.2

< 学生自身の取り組み（設問 11～12）、授業に対する満足度（設問 13～15）、科目区分に関する満足度（設問 16～17） >

人数	問 11	問 12	問 13	問 14	問 15	問 16	問 17	11-17 平均
1-9	4.3	4.4	4.7	4.6	4.7	4.8	4.7	4.6
10-19	4.0	4.0	4.6	4.3	4.4	4.4	4.4	4.3
20-29	3.9	3.7	4.3	4.1	4.3	4.3	4.2	4.1
30-39	4.1	3.9	4.5	4.3	4.5	4.4	4.4	4.3
40-49	3.9	3.9	4.1	4.0	4.1	4.3	4.1	4.0

B. 教員による担当科目自己評価

2008 年度春学期の担当教員による授業評価アンケートは、質問項目を前回と変更している。前回の質問項目には「改善・工夫をしたほうがよい点」という質問はあったが、今回は「実施してよかった点」についても回答してもらうようになっている。この質問項目への回答から、他の教員にも参考になると思われる様々なアイデアや情報が開示され、教員側の視点からであるが、効果的と考えられる教育の方法について分析できるようになった。この質問項目を加えた意義は大きいと考えられる。他方、アンケートが今後の教育への有益な参考情報になるという意識が薄いと思われる回答も少々見られた。アンケート調査も 4 年目となり、マンネリを感じる部分もあるかもしれない。FD 活動等を通じてアンケート協力への意識を高める、今回のように時期をみて質問項目を見直すなどの継続的な取り組みが必要と考えられる。

以下では、それぞれの質問項目について分析・考察する。

(1) 「最も力を入れたこと」

一般の授業については、理論や分析フレームワークを体系的に理解してもらうこと、理論の実践への応用力を養成するといった回答が多い。実践への応用力を養成する具体的な方法としては、具体的な事例の紹介、ケース・ディスカッション、ゲストスピーカーによる講演、また、グループ・ワークやワークショップを通じて、授業の活性化を図るといったことに力を入れたなどが挙げられている。

課題研究基礎・課題研究において力を入れたことについての回答は、教員それぞれに固有のものになっている。課題研究基礎の回答例としては、論文作成にあたってのテーマ設定、資料・データ収集、文献検索の方法、論文の書き方などの基礎知識を身につけてもらう、各学生の課題研究のテーマ設定とその進捗に助言を与えること、質的調査・量的調査などの実施について知識、あるいは研究に役立つと考えられる方法論を身につけさせることなどが挙げられている。課題研究における例としては、オリジナリティを発揮してもらう、実際の自分の所属する組織に役に立つような研究課題に取り組んでもらう、理論を現実のデータに当てはめる能力の養成、実証を確実に行うなどである。

(2) 「実施してよかった点」

一般の授業に関しては、ケース・ディスカッション、ケースを通じた実習、グループワーク、ゲストスピーカーの招聘などが多く挙げられている。また、小まめに小テストやレポートを課し、それに対してフィードバックを行うことが有効であるという指摘も多い。具体的には、毎回課題を出す、ケースのレポートを毎回課す、毎回小テストをする、小レポートを課し毎回の理解を把握するなどである。毎回でなくても、最終レポートなどにフィードバックするなど、学生にフィードバックすることの有効性が示唆されている。このほか、個々の授業に応じた様々な方法が挙げられている。例えば、講義ノートや統計ソフトの使い方に関するオリジナルのマニュアルを作成したこと、ゲストスピーカーにディスカッションに加わってもらったこと、取り上げたケース・授業内容について最終日にアンケートを取ったこと、平成 18 年度文部科学省・専門職大学院等教育推進プログラム「現代企業家の戦略的役割」で本学が作成した DVD、ケースを使用したことなどである。こういった方法は、他の教員にとってもアイデアとして参考になるであろう。

課題研究基礎・課題研究に関しては、個々の教員がそれぞれの回答をしている。課題研究において複数見られた回答としては、毎回発表させて研究の進展を図る、課題研究がスタートする前の春休みに何回か授業をすることで、早めにテーマ設定をする、などであった。その他、毎回 A4 で 2 枚書いたものを提出することを義務付けたこと、時間外にも研究会を行ったことなどが挙げられている。

(3) 「改善・工夫をしたほうが良い点」

教員によってそれぞれ個別の課題が指摘されている。一般の授業で複数見られた回答としては、さらに適切なケースを探す、理論の説明とディスカッション等の授業時間内の時間配分を改善する、人数が多いことに対して何らかの対策を取るなどである。その他、授業連絡ボードを資料の配布以外にもっと活用する、授業において名前を呼んで発言を促す、といったことが指摘されている。

課題研究基礎においては、時間的制約や人数が多いことに対処する必要があるという指摘が見られた。課題研究においては、論文を書くルールなどについて十分な知識を持っていない、文章を書く訓練も授業で行うべきかもしれない等、論文執筆に関する知識や技量の面で改善の余地があるという指摘がある。論文を書くルールなどは、本来課題研究基礎である程度カバーされているべきことであるが、そういった知識が十分に与えられていない可能性がある。その他、実際の課題研究が始まる前に何回かゼミを行う、早期に論文作成に取り掛からせる、など研究の進行を早める工夫が必要という指摘が見られた。時間外の取り組みについては、個々の教員の自主性に任せるしかないが、課題研究という科目に対して、総じて時間が足りないということを多くの教員が感じていることが窺える。

(4) 「この科目を担当するにあたって、当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、自身の思っていた目標は達成されたか」

おおむね達成できたという回答が多い。達成できたとはいえないという回答においては、学生間の理解力や意欲にばらつきがある、7 週間という時間数の制限による難しさから、達成で

きたとはいえないという指摘が複数見られた。特に、学生側の理解力、意欲に関しては、教員側による努力の難しさが指摘されている。

4. 会計専門職専攻

A. 学生による授業評価

(1) 概要

学生による授業評価アンケートは、①教員の授業内容と方法について、②あなた自身の取り組みについて、③授業の全般的評価について、④コア、ベーシックおよびアドバンストの科目区分ならびに公認会計士試験への役立ちなどについての 18 項目の設問に、学生が 5 段階評価で答える方式である。

(2) 設問項目

学生による授業評価アンケートは、経営戦略専攻の「学生による授業評価アンケート」でも明記したように、設問 1 から設問 10 が「教員の授業内容と方法」について、設問 11 および設問 12 が「あなた自身の取り組み」について、設問 13 から設問 15 が「授業の全体的評価」についてであり、加えて、設問 16 から設問 18 が、コア、ベーシックおよびアドバンストの科目群の適切性、公認会計士試験対策としての役立ちについて問うものである。

(3) 全体評価～専攻平均値～

専攻平均値は、すべての設問の評点をのべ回答人数で平均したもの（総平均値）である。2005 年度春学期から 2008 年度春学期にかけての専攻平均値の推移は、次のとおりである。開設以来、前回の 2007 年度秋学期までは上昇を続けてきたが、今回、これまでの 2 番目の水準ではあるが、初めて低下をみせている。したがって、今回、教員は、担当科目の授業評価アンケート授業別集計結果と以下の設問別評価をこれまでも増しても受け止めるべきであろう。

<すべての設問に対する総平均値の推移>

	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度
春学期	3.9	4.2	4.3	4.4
秋学期	4.2	4.3	4.5	—

(4) 個別評価

① 設問別平均値

設問別平均値は、個々の設問の評点をのべ回答人数で平均したものであり、これを科目区分ごとの平均値をまとめたものは、次のとおりである。

② 教員の授業内容と方法

「教員の授業内容と方法」に関して評点が 4.5 ポイントを超える高い評点を得た設問は、設問 1「授業の内容は、シラバスで示された主題や目的に十分沿っていましたか」、設問 2「教員は十分に準備して授業に臨んでいましたか」、設問 3「教員は、担当科目の授業を行うのに十分な専門的知識を持っていましたか」、設問 9「教員は学生の質問に丁寧に答えていましたか」、および、設問 10「この授業は将来の学習にとって有意義なものでしたか」である。設問 4「授業で指定された教科書や配布された資料は、学習の助けになりましたか」の評点は 4.5 ポイントである。

<設問 1 から設問 10 の平均値>

	設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10
専攻全体										
2007年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.4	4.4	4.4	4.5	4.6	4.6
2008年度春学期	4.6	4.6	4.7	4.5	4.3	4.3	4.4	4.3	4.6	4.6
コア科目										
2007年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.3	4.2	4.3	4.4	4.4	4.5
2008年度春学期	4.6	4.5	4.7	4.4	4.1	4.1	4.2	4.2	4.4	4.5
ベーシック科目										
2007年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.7	4.5	4.4	4.4	4.5	4.7	4.7
2008年度春学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.4	4.4	4.5	4.4	4.6	4.6
アドバンスト科目										
2007年度秋学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.6	4.6	4.6	4.5	4.7	4.7
2008年度春学期	4.7	4.7	4.8	4.6	4.5	4.4	4.5	4.5	4.6	4.6

<設問 11 から設問 18 の平均値>

	設問 11	設問 12	設問 13	設問 14	設問 15	設問 16	設問 17	設問 18
専攻全体								
2007年度秋学期	4.0	3.9	4.5	4.4	4.5	4.5	4.4	4.3
2008年度春学期	3.9	3.8	4.4	4.3	4.4	4.5	4.3	4.3
コア科目								
2007年度秋学期	4.0	3.8	4.4	4.2	4.3	4.5	4.3	4.3
2008年度春学期	3.9	3.7	4.3	4.1	4.3	4.4	4.1	4.3
ベーシック科目								
2007年度秋学期	4.1	4.0	4.6	4.4	4.6	4.5	4.5	4.4
2008年度春学期	4.0	3.9	4.5	4.3	4.5	4.5	4.5	4.2
アドバンスト科目								
2007年度秋学期	4.0	4.0	4.6	4.5	4.6	4.6	4.6	4.2
2008年度春学期	3.9	3.8	4.5	4.4	4.5	4.5	4.5	4.3

4.5 ポイント未満の評点の設問は、設問 5「教員は学生が発言したり議論することに十分な配慮を払いましたか」、設問 6「教員は、個々の学生の内容理解の水準を考慮していましたか」、設問 7「この授業で与えられる課題の量は適正なものでしたか」、設問 8「授業の内容と時間配分は適正なものでしたか」である。

これらの結果は、学生が教員の授業内容の意義について理解しており、会計専門職専攻開設以来の教育面での一定の成果といえることができるだろう。ただし、学生の議論や理解の支援、課題の負荷および授業の時間配分などの授業方法に関しては改善の余地があることを示唆するものであり、より一層の研鑽を期待したい。

③ 学生自身の取り組み

今回の授業評価アンケートにおいて評点が 4.0 ポイント未満の結果となったものは、「学生自身の取り組み」に関する設問のみである。「学生自身の取り組み」を問うた設問 11 および設問 12 の評価点のこれまでのアンケート調査結果の推移は、次のとおりである。

<学生自身の取り組みに係る評点の推移>

	2005年度 春学期	2005年度 秋学期	2006年度 春学期	2006年度 秋学期	2007年度 春学期	2007年度 秋学期	2008年度 春学期
設問 11	3.6	3.7	3.7	3.8	3.9	4.0	3.9
設問 12	3.4	3.5	3.6	3.7	3.7	3.9	3.8

設問 11「この授業を受けるに当たって十分な予習や復習を行いましたか」については、前回の 4.0 ポイントから 3.9 ポイントに、設問 12「この授業を受けるに当たって自分から文献を探すなどの努力をしましたか」については、前回の 3.9 ポイントから 3.8 ポイントに低下している。

「学生自身の取り組み」については、他の設問の評点よりも低い傾向にあり、「教員の授業内容と方法」の設問 7 とも関連するところがあるが、授業内容の修得という点で懸念されるべきであるといえる。そこで、学生の主体的関わりを生かしつつ学生への負荷を増加させていくことや、特に予習・復習すべき事項を伝達することなども考慮すべきであると思われる。

④ 授業の全般的評価

「授業の全般的評価」を問うた設問 13 から設問 15 については、本来は、授業評価の結論としての指標となるべきである。

「授業の全般的評価について」に関しては、2007 年度秋学期において 4.5 ポイントを超えていた、設問 13「この授業は全般的に満足のいくものでしたか」と設問 15「この授業を他の学生に勧めたいと思いますか」は、それぞれ 4.4 ポイントに低下している。設問 14「この授業を受けることで分析能力がついたと思いますか」については、2007 年度秋学期同様、4.5 ポイント未満であり、その評点は 4.3 ポイントであった。また、設問 13、設問 14 および設問 15 に対する回答のなかで、「そう思う」と「だいたいそう思う」が占める割合は、それぞれ、85%、79%、83%となっている。

これらは、必ずしも「教員の授業内容と方法」での高い評価点の加重平均から推測されるものとはなっておらず、したがって、現段階で、十分に高い水準にあるとはいえない。この点を踏まえた「授業の全般的評価」への取り組みが今後とも必要であり、これは、一つに「学生の取り組み」に対する教員の対応にも関わっていると考えることができる。

⑤ 科目区分別の評価

コア科目に関しては、設問 17「授業内容は初学者に対しても配慮されたものでしたか」の評点が 4.1 ポイントと低くなっている。また、コア科目の設問 1 から設問 15 の評点がベーシック科目およびアドバンスト科目のそれよりも低いものとなっており、特に、設問 5 と設問 6 において顕著である。

さらに、ベーシック科目の設問 17「授業内容は理論と実践のバランスのとれたものでしたか」の評点は 4.5 ポイント、アドバンスト科目の設問 17「授業内容は自らの将来のキャリアに役立つものでしたか」の評点は 4.5 ポイント、これに対して、それぞれの設問 18「この科目は公認会計士試験の基礎的な受験対策として役に立ちましたか」の評点は 4.2 ポイント、設問 18「この科目は公認会計士試験の応用的な受験対策として役に立ちましたか」の評点は 4.3 ポイントという低いものとなっている。

これらのことは、特に、各科目分野の導入教育、公認会計士養成の教育について改善の余地があることを示唆するものであり、今後とも重要な課題であると位置づけられよう。

B. 教員による担当科目自己評価

(1) 概要

教員の担当科目自己評価表においては、①この科目を担当するにあたって最も力を入れたことは何ですか、②この科目において、実施してよかった点と改善・工夫をした方がよい点

は何ですか、③この科目を担当するにあたって当初予定していた目標や、授業で最も力を入れたことを踏まえて、ご自身の思っていた目標は達成されたと思いますか、という設問について、担当教員が回答するものである。

(2) 各質問項目の回答傾向

ここでは科目区分毎の回答傾向を提示しているが、公認会計士養成プログラム、企業経理財務担当者養成プログラム、自治体会計・行政経営専門職養成プログラムかどうかで、その達成目標は自ずと異なることから、下記はこのような点も反映された回答といえる。

① 「この科目を担当するにあたって最も力を入れたこと」を問う設問1に関して、コア科目については、担当科目に関する「基礎的な知識の修得」・「体系的な理解」・「考え方の理解」を目的とする回答と、「板書方法」・「資料の作成」といった講義方法を挙げた回答がみられた。

ベーシック科目については、担当科目に関する「最新動向」・「応用的内容」・「現状と課題」・「基本的事項」・「近年の試験動向に合致した講義」・「体系的な理解」・「分析力・思考方法の涵養」といった理論や論点の理解を図るとする回答、最新の事例や実務と取り上げることとする回答のほか、具体的な講義内容を挙げた回答や学生の課題発表といった講義方法を挙げた回答がみられた。

アドバンスト科目については、「事例に基づいた解説」・「評価手法の修得」・「演習の実施」・「理論的思考の涵養」・「理論と計算の理解の深化」・「実務的知識の伝授」・「講義に対する関心の喚起」・「論点の検討」といった回答がみられた。

② 「担当科目について実施してよかった点」を問う設問2-1に関して、コア科目については、「小テストの実施」・「各回での達成すべき目標の明示」・「小テストと総括テストの実施」・「毎回課題を課す」・「図表の多用」・「事例を調査させて、意見を形成させる」・「実務経験を踏まえた講義」といった回答が見られた。

ベーシック科目については、「独自資料の作成」・「小テストの実施」・「毎回課題を課す」・「小論文・レポートを課す」・「小テストの実施とレポートを課す」・「ケースの活用」・「事前課題の意見の確認と検討」といった回答がみられた。

アドバンスト科目については、科目の位置づけを踏まえた「双方向の講義」という回答のほか、「事例の活用」・「小テストの実施」・「学生による報告」・「グループディスカッション」・「レポートの提出」・「演習」・「事前に課題を出し講義時に検討を行う」といった回答がみられた。

③ 「担当科目について改善・工夫した方がよい点」を問う設問2-2に関して、コア科目については、「リーディング資料の提示」・「小テストの実施」・「時間配分」・「図表などを活用した視覚的な理解の促進」・「事例の活用」・「質問時間の確保」・「レポートなどのフィードバック」といった回答が見られた。

ベーシック科目については、「小テストの実施」・「図表などを活用した視覚的な理解の促進」・「課題の解答の解説」・「事例の開発」・「事例の紹介」・「基礎知識が不十分な学生への配慮」・「時間配分」・「教材開発」・「双方向性」・「事前課題の設定」といった回答がみられた。

アドバンスト科目については、「講義すべきポイントの絞込み」・「時間配分」・「問題のアップデート」・「ディスカッションする時間の確保」・「事例の活用」・「課題の事前の掲示」といった回答のほか、「学生の基礎学力の把握」という回答もみられた。

④ 「講義目標の達成度」を問う設問3に関しては、「達成できた」・「おおむね達成できた」との回答が大半であった。ただし、「小テストの結果からみて達成できていない」・「予習が不十分な学生や理解度のバラツキのために、十分に達成できていない」旨の回答も散見される場所である。

(3) 自己評価表の全体的傾向

会計専門職専攻教員の担当科目自己評価表から整理できる全体的な傾向としては、以下の点である。

- ① 「この科目を担当するにあたって最も力を入れたこと」に関しては、担当科目の科目区分(コア・ベーシック・アドバンスト)を踏まえて、担当科目に関する基礎的知識の習得、体系的な理解、問題解決能力の養成等が設定されており、総じて、担当教員が科目区分、プログラム、そして科目の性質(課題研究・詳説、事例研究、自治体関係)を踏まえて講義に望んでいるものと思われる。
ただし、当該設問は、教員が目指す目標であると同時に学生が講義を通じて達成すべき到達点を示し、また講義に臨む姿勢などを示す部分でもある。そして、「講義目標の達成度」と連関しているものであるため、記述は具体的であることが望ましい。
- ② 「実施して良かった点」に関しては、小テストの実施が各科目群を通じて多いことは、学生の講義内容の理解度の確認とこれを通じた講義内容の改善に有用であることを示唆するものである。もちろん、レポートの提出、事前課題の提示、事後課題の賦課等の方法と合わせて、講義内容の理解を促す方法について、継続して実施・改善することが必要である。
- ③ 「改善・工夫した方が良い点」に関しては、資料の改善、事例の活用、小テストの実施といった回答が大勢といえ、これがあると認識している教員においては、早期に実施すべきことが要請される。なお、ベーシック科目においては、講義についてこれられない学生に対するフォローアップを挙げる回答があったことを付記しておく。
- ④ 教員による担当科目自己評価表の提出時期は、現在、学生による授業評価アンケートと同時期になっている。そこで、「改善・工夫した方が良い点」に関して特にナシと回答した教員、そして、「講義目標の達成度」に関して達成できた、おおむね達成できたとの回答をした教員においても、学生による授業評価アンケートと試験結果とを踏まえて、自己評価表を見直すことが要請される。

5. まとめと残された問題

学生による授業評価アンケートと担当教員による授業自己評価は、2005年度経営戦略研究科開設以来7つの学期(2005年度春学期・秋学期、2006年度春学期・秋学期、2007年度春学期・秋学期及び2008年度春学期)にわたって同じ設問によって実施されてきた。したがって、各アンケート設問に対する回答結果をもとに時系列分析を行うことが可能である。しかし、教員による授業自己評価表は自由記述形式のため、単純な数値的分析にはなじまない。経営戦略専攻企業経営戦略コースと会計専門職専攻のいずれについても、本報告書のなかでアンケート結果の時系列分析を実施しており、これがひとつの特色となっている。

まず、学生による授業評価アンケートについて、経営戦略専攻企業経営戦略コースでは、前年度と比べてほぼ変化が見られないのに対して、会計専門職専攻では全体平均では若干低下している。しかしながら、例年と同じく「教員の授業内容と方法」に対する評価は高評価で安定しており、教員が専門知識を活かしシラバスに沿って相当な授業準備を行って授業に臨んでいることが窺える。「学生自身の取り組み」については漸次改善されているが、「教員の授業内容と方法」に比べると相対的に低い評価であり、引き続き改善の余地が残る。また、「授業に対する満足度」についても、前回調査よりも減少傾向であり、「授業の全体的評価」改善への取り組みが今後必要である。両専攻ともにコア科目、ベーシック科目、アドバンスト科目の関連性が高いという結果がでている。教員相互間の関係や担当科目での改善が、科目間の関係を強める好結果につながっている。ただし、会計専門職専攻では科目群別の評価において、ベーシック科目の評点が、アドバンスト科目の評点よりも低いものとなっており、各科目分野の導入教育、公認会計士養成の教育について改善の余地がある。その他の観点について、経営戦略専攻企業経営戦略コースでは、人数が多い科目でいかに学生の満足度を高めるかが課題である。

次に、担当教員による授業自己評価については、「教員の担当科目自己評価」の見直しを行

い、今回からそのフォームを変更した。経営戦略専攻企業経営戦略コースでは、「実施してよかった点」という質問を設けたことで、有用な情報が得られるようになった。この回答から、他の教員にとっても参考になると思われる教育の方法について分析できるようになった。例としては、フィードバックを行うこと、小テストやレポートをこまめに課すこと、オリジナルの講義ノートや統計ソフトの使い方に関するオリジナルなマニュアルを作成したことが挙げられる。このほか、課題研究に関しては、多くの教員が時間が足りないと感じていることも浮かび上がった。また、会計専門職専攻では、「実施して良かった点」に関しては、小テストの実施が各科目群を通じて多いことは、学生の講義内容の理解度の確認とこれを通じた講義内容の改善に有用であった。ただし、これが学生自身による取り組みと連動しておらず、この点については今後も検討する必要がある。

2007年度の授業に引き続き、「専任教員相互授業参観」と「授業担当教員と参観者による意見交換会」が実施された。残念ながら経営戦略専攻企業経営戦略コースでは、多くの教員が授業参観に参加するまでには至らず、十分な意見交換ができなかったため、これに代わるものとして「教授法（FD）に関する意見交換会」を本年度秋学期に開催する予定である。また、他大学を含めた教員によるモデル授業の実施と意見交換を行うべく、「教授法（FD）に関する研修会」を本年度秋学期に実施する予定である。

2006年度春学期の「授業評価アンケート結果報告書」以降に明記されている授業評価の実施過程のなかで、「評価で特に優れた教員については、これを表彰する」、いわゆるベスト・ティーチャー賞の創設について提言されている。教育研究水準の継続的な向上を図るためにも、授業評価・FD部会は当該表彰制度の創設について具体的な検討を行ったが、適切な評価方法（選出基準）を決定するには至らず、実施を見送ることとした。ただし、教員の資質向上、教育内容改善に対するモチベーションを高める施策について、今後も引き続き議論する必要はあろう。

学生による授業に関するアンケートと教員の担当科目自己評価を実施することにより、ビジネススクールおよびアカウンティングスクール教育固有の教学上の諸課題を把握することができた。今後はこれらの課題を一つずつ解決し、ビジネススクールおよびアカウンティングスクール教育の質的向上を図りたい。

以上

関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科
自己評価委員会授業評価・FD部会
山地 範明（コンビーナー）
ジョン・ホング
大内 章子
小高 久仁子
中島 稔哲

2008年度春学期授業評価アンケート実施授業科目一覧

2007年度秋学期集中科目含む
2008年度春学期集中科目除く

経営戦略専攻企業経営戦略コース							
学則コード	科目	クラス	教員	期間	曜日	時限	履修
01101	企業倫理	1	宮本 又郎	春前	木	VI	44
01102	経営学	1	小高 久仁子	春前	月	VI	42
01102	経営学	2	大内 章子	春後	土	III	31
01103	会計学	1	児島 幸治	春後	日	III	48
01104	経済学	1	土井 教之	春前	火	VI	42
01105	統計学	1	羽室 行信	春後	金	VI	46
01106	英語コミュニケーション	1	マーク シニア	春前	水	VI	21
01106	英語コミュニケーション	2	マーク シニア	春後	水	VI	19
02101	経営戦略	1	小高 久仁子	春後	月	VI	41
02102	人的資源開発	1	大内 章子	春前	土	III	32
02102	人的資源開発	3	大内 章子	秋	冬集前		41
02103	マーケティング・マネジメント	1	佐藤 善信	春前	日	V	43
02104	ファイナンス	1	甲斐 良隆	春前	日	V	28
02105	企業ファイナンス	1	岡田 克彦	春後	日	V	9
02106	管理会計		宮本 寛爾	秋	冬集前		28
02108	テクノロジー・マネジメント	1	玉田 俊平太	春後	土	VI	35
02109	情報システム	1	羽室 行信	春前	土	VI	20
02112	行動科学		山本 昭二	春後	木	VI	21
02114	産業組織論		新庄 浩二	春後	土	III	13
02116	会社法		大和 正史	春後	月	VI	21
02117	上級英語コミュニケーション	1	ジョセフ シーハン	春前	土	III	10
03101	企業経営史		宮本 又郎	春後	木	VI	23
03105	NPOマネジメント (合併)		太田 康嗣	春後	木	VI	11
03108	経営戦略事例研究	1	岡本 好央	春後	土	III	19
03113	マーケティング戦略		佐藤 善信	春後	日	V	32
03114	流通システム		山本 昭二	春前	土	VI	16
03115	消費者行動		新倉 貴士	春前	火	VI	19
03115	消費者行動		新倉 貴士	秋	冬集前		32
03119	金融工学		甲斐 良隆	春後	月	VI	28
03121	証券投資		岡田 克彦	春前	木	VI	20
03123	コーポレート・リストラクチャリング		平木 多賀人	春後	土	VI	8
03126	金融機関経営		ジョン ホング	春後	火	VI	4
03128	製品開発		服部 宏紀	春前	土	III	24
03129	データマイニング		羽室 行信	春後	土	VI	18
03130	製品開発事例研究	1	服部 宏紀	春後	金	VI	9
03131	アントレプレナーシップ		定藤 繁樹	春前	土	III	25
03133	起業家マインド	1	吉田 雅紀	春前	月	VI	21
03133	起業家マインド	2	吉田 雅紀	秋	冬集前		18
03139	企業経営戦略特論A		玉田 俊平太	春後	土	III	22
03142	課題研究基礎	2	宮本 又郎	春前	金	VI	17
03142	課題研究基礎	1	山本 昭二	秋	冬集後		14
03142	課題研究基礎	6	甲斐 良隆	秋	冬集後		23
03142	課題研究基礎	8	小高 久仁子	秋	冬集前		7
03142	課題研究基礎	7	羽室 行信	春後	木	VI	3
03143	課題研究	5	佐藤 善信	春	日	III	2
03143	課題研究	17	玉田 俊平太	春	日	III	2
03143	課題研究	1	宮本 又郎	春	土	I	5
03143	課題研究	3	小高 久仁子	春	土	I	3
03143	課題研究	7	山本 昭二	春	土	I	3
03143	課題研究	9	甲斐 良隆	春	土	I	4
03143	課題研究	11	大内 章子	春	土	I	5
03143	課題研究	15	定藤 繁樹	春	土	I	7
03143	課題研究	19	羽室 行信	春	土	I	4

会計専門職専攻							
学則コード	科目	クラス	教員	期間	曜日	時限	履修
51101	国際会計論	1	杉本 徳栄	春前	土	Ⅲ	26
51102	簿記原理	1	玉置 求己	春前	土	Ⅲ	23
51103	簿記基礎	1	上田 耕治	春前	木	Ⅰ	42
51103	簿記基礎	2	上田 耕治	春後	土	Ⅰ	22
51104	簿記	1	中島 稔哲	春前	火	Ⅵ	14
51104	簿記	2	中島 稔哲	春後	木	Ⅰ	33
51106	財務会計論	1	山地 範明	春前	月	Ⅰ	14
51106	財務会計論	2	山地 範明	春後	火	Ⅵ	42
51201	財務会計基礎	1	杉本 徳栄	春前	金	Ⅰ	40
51201	管理会計基礎	1	徳崎 進	春前	金	Ⅵ	21
51202	管理会計論	1	浜田 和樹	春前	月	Ⅲ	17
51202	管理会計論	2	浜田 和樹	春後	月	Ⅵ	39
51203	原価計算基礎	1	稲澤 克祐	春後	土	Ⅴ	45
51204	原価計算論	2	徳崎 進	春後	土	Ⅲ	17
51204	原価計算論	1	徳崎 進	春後	木	Ⅲ	25
51301	会計倫理	1	西尾 宇一郎	春前	土	Ⅴ	30
51301	会計倫理	2	西尾 宇一郎	春後	土	Ⅲ	29
51302	監査論	1	西尾 宇一郎	春前	土	Ⅲ	32
51302	監査論	2	西尾 宇一郎	春後	土	Ⅴ	15
51401	経済学	1	新庄 浩二	春前	木	Ⅲ	9
51402	経営学	1	加藤 雄士	春前	土	Ⅰ	35
51402	経営学	2	加藤 雄士	春後	土	Ⅰ	22
51501	企業法	1	岡本 智英子	春前	火	Ⅰ	18
51501	企業法	2	岡本 智英子	春前	土	Ⅰ	20
51502	租税法基礎	1	西尾 宇一郎	春前	月	Ⅵ	41
51503	法人税法	1	西尾 宇一郎	春後	月	Ⅵ	36
52101	簿記応用	1	杉本 徳栄	春前	土	Ⅰ	6
52102	会計基準論	1	中島 稔哲	春後	土	Ⅰ	22
52103	国際会計基準論	1	杉本 徳栄	春後	水	Ⅵ	9
52104	連結財務諸表論	1	山地 範明	春後	火	Ⅰ	16
52105	会計制度論	1	上田 耕治	春後	土	Ⅲ	14
52106	国際公会計論	1	稲澤 克祐	春後	土	Ⅲ	18
52107	会社法会計論	1	池浦 良典	春後	火	Ⅵ	13
52108	公会計論	1	稲澤 克祐	春前	火	Ⅵ	19
52108	公会計論	2	稲澤 克祐	春前	土	Ⅰ	16
52201	予算管理論	1	小菅 正伸	春前	月	Ⅵ	22
52203	財務分析	1	井上 浩一	春前	金	Ⅵ	11
52302	監査制度論	1	上田 耕治	春前	土	Ⅰ	16
52302	監査基準論	1	野呂 貴生	春後	土	Ⅴ	30
52401	経済政策	1	新庄 浩二	春後	月	Ⅵ	2
52402	財政学	1	稲澤 克祐	春前	土	Ⅲ	12
52403	統計学		甲斐 良隆	春後	火	Ⅲ	7
52405	経営管理論	1	加藤 雄士	春前	土	Ⅲ	18
52406	経営財務論	1	徳崎 進	春前	火	Ⅲ	8
52407	ビジネスコミュニケーション	1	マーク シニア	春後	水	Ⅲ	8
52408	行政経営論	1	石原 俊彦	春前	水	Ⅵ	7
52501	民法	1	松野 友芳	春前	金	Ⅲ	8
52501	民法	2	松野 友芳	春後	金	Ⅵ	14
52502	商法	1	岡本 智英子	春後	火	Ⅰ	7
52503	会社法	1	岡本 智英子	春後	水	Ⅵ	4
52504	金融商品取引法	1	田中 庸介	春前	土	Ⅴ	40
52505	租税法実務	2	宮口 定雄	秋	冬集前		36
53101	簿記実践	1	玉山 慶幸	春後	火	Ⅵ	23
53105	企業評価論		井上 浩一	春後	金	Ⅵ	15
53108	非営利法人会計論		稲澤 克祐	春後	土	Ⅰ	15
53109	簿記課題研究		中島 稔哲	春	木	Ⅵ	12
53110	財務会計課題研究	1	山地 範明	春	金	Ⅵ	16
53112	財務会計事例研究	1	西田 隆行	春後	金	Ⅵ	4
53201	意思決定会計論		浜田 和樹	春前	火	Ⅰ	28
53202	業績評価会計論		浜田 和樹	春後	火	Ⅲ	28
53203	会計情報システム		木村 安寿	春前	土	Ⅲ	16
53205	地方自治体管理会計論		石原 俊彦	秋	冬集前		32
53301	内部統制論		遠藤 尚秀	秋	冬集前		97
53302	地方自治体内部統制論	1	石原 俊彦	春後	土	Ⅲ	18
53305	地方自治体監査論		小市 裕之	春後	土	Ⅰ	17
53307	監査課題研究		石原 俊彦	春	土	Ⅰ	5
53402	経済学詳説	1	三木 潤一	春後	木	Ⅵ	3
53408	NPOマネジメント (合併)		太田 康嗣	春後	木	Ⅵ	2
53410	経営管理詳説		加藤 雄士	春後	土	Ⅲ	13
53411	経営財務詳説		徳崎 進	春後	火	Ⅲ	4
53414	地方自治体マーケティング		武久 顕也	春前	土	Ⅴ	10
53415	行政経営資源論	1	平野 誠也	春前	水	Ⅵ	9
53415	行政経営事例研究	1	梅村 仁	春後	水	Ⅵ	4
53416	地方自治体人事管理論		山中 俊之	春後	水	Ⅵ	12
53504	企業法要説	1	朝沼 晃	春前	水	Ⅲ	14
53505	税務申告実務	1	瀬戸口 有雄	春前	金	Ⅵ	8
53507	企業法課題研究		岡本 智英子	春	火	Ⅵ	2
53507	租税法詳説		井村 登	春後	月	Ⅵ	9
53508	企業法詳説		田中 庸介	春後	土	Ⅴ	19
53511	地方税実務		麻木 邦子	春後	土	Ⅴ	18

(5) 記述評価項目

a) この授業で良かったところを具体的に書いてください。

b) この授業で変えてほしいところがあれば、具体的に書いてください。

c) この授業に関してほかに気づいたことがあれば書いてください。

